

三次市教育委員会教育長賞

災害への備えは大切

三次市立川地小学校

第五学年 中重 奏人

二〇一八年七月、ぼくが二年生のころ、その日は強い雨がふっていました。そして、夜ねようとしていた時、急に玄関のインターホンが鳴りました。おじいちゃんが出ると、「川の水がかなり増えています。今すぐ、近くのひなん所にひなんしてください。」

と、消防士の方がぼくたちに呼びかけました。

ぼくの家は川は遠いところにあり、山は近いけれど、コンクリートで固めてあります。そのため、自分の住んでいる地域を危険だと感じたことがなく、ひなんの準備なども、全くしていませんでした。しかし、急にひなんすることになったので、家族みんなであわてて毛布など、できるかぎりの物を準備して、車に乗ってひなん所へ向かいました。

ひなん所になつて川地小学校へ向かうと中、川の水があふれて通れなくなっていました。どこを通れば安全なのか分からず、運転をしていたお父さんとお母さんは、とても焦っている様子で、車に乗っていたぼくは不安な気持ちでいっぱいでした。

何とか他の道をたどり、川地小学校に着くと、たくさんの人が

ひなんしていました。そこでテレビを見てみると、洪水や土砂崩れで倒れた家や行方不明者の数などが映し出されていて、亡くなった方がいることも分かりました。ぼくはその日にはじめて、災害の恐ろしさを知ったのです。

それから三年が経ち、ぼくは五年生になり、総合的な学習の時間に「防災」について勉強することになりました。その中で、ぼくが特に感じたことは、二つあります。

一つ目は、ぼくが思っていた以上に、災害は恐ろしいということです。広島県河川課の方にお話を聞いた時に、強い雨が降り続けると、川の水を止める堤防も壊れることがあることを、教えてくださいました。たとえコンクリートで固めてあっても、崩れてしまうことがあるということを知り、ぼくは、水の力はかなり強いんだなと思いました。

二つ目は、日頃から備えておくことの大切さです。本やインターネットで防災グッズを調べると、ひなん所に持つていくと良いものがたくさんありました。しかし、実際に、クラスのみんなが防災グッズを準備してみると、とても時間がかかり、これらを全てリュックに詰め、急いでひなんすることは難しいことが分かりました。また、準備をしてみても、防災グッズを入れたリュックが重すぎると逆に逃げるときに危ないことにも気付きました。

また、ハザードマップの使い方を知りました。これを見ておけば、ひなん所や安全なひなん経路も確認でき、落ち着いてひなんすることができると思いました。

三年前の西日本ごう雨でひなんをしたときのことを思い出すと、ぼくは災害の恐ろしさも知らず、防災グッズの準備やひなん経路の確認が全くできていませんでした。そのため、一歩遅ければ、ひなんが遅れて、かなり危険な状態だったと思います。

最後に、広島県河川課の方の言葉で心のこつていることがあります。それは、

「ひなんをじやまするのは、自分の心です。自分は大丈夫と思ったり、近所の人がひなんしてないからと言ったりしていると、かなりきけんな状態になります。」

という言葉です。大きな災害が起こったとき、三年前のぼくのようにも知らなかったら、自分は大丈夫だと思いきみ、命を落としてしまうかもしれません。だからこそ、日頃から災害に備え、落ち着いて行動するために、危険な場所や準備物、行動の仕方を知っておくことが大切です。

これからは、ぼくが生まれた大切な川地の人や、家族が、いざというときに自分の力で命を守るように、学んだことを伝えていける存在になりたいです。